

社会学における野球部の体罰問題

社会学における組織論と野球部の体罰問題はどのように関係しているのだろうか。

本論文での体罰とは、殴る、蹴るなどの身体に対する侵害と正座、直立等の特定の姿勢を長時間にわたって保持されるなど肉体的苦痛を与えるものとし、高校野球経験者の 18 歳～22 歳を対象とする。昔に比べ体罰は減ってきているが、体罰問題が無くなることは未だにない。そこで、本論文では、社会学の組織論と野球部の体罰問題がどのように関係しているのかを明らかにすることを試みた。野球部と他の集団の比較と高校野球経験者にインタビュー調査をした。「閉鎖的な環境」、「絶対的な上下関係」、「妥協と体罰の再解放」、「勝利(夢、目標達成)の追求」、「集団への帰属意識」この 5 つの文学的要素が体罰を発生させていると同時に、体罰を受容せざるを得ない環境を作っていることが分かった。今後はこうした研究の成果を具体的な教育現場における体罰根絶に向けた対応を検討することが望まれる。